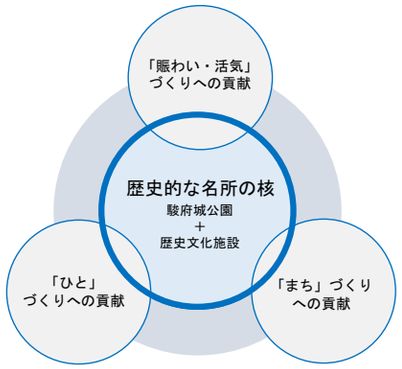
Ⅰ　基本方針

■計画の位置づけ　［本編2ページ］

歴史文化のまちづくり

○「世界に輝く静岡」の実現に向けて歴史的な名所の核となる（第3次静岡市総合計画）
○「まち」の存在感を高め、交流人口を増やす「ひと」を育て、「まち」を活性化する（静岡市総合戦略）



■基本理念　［本編3ページ］

歴史文化から静岡の未来をつくる。
～静岡の過去を学び、今を知る。そして、未来を考える。～

静岡市の豊かな歴史と文化を活かし、「世界に輝く静岡」を実現していく拠点となるのが、この歴史文化施設です。
静岡市ならではの歴史文化遺産の価値と魅力を発信する活動で、地域に賑わいと豊かさを創出し、静岡市の発展を牽引していきます。

■基本方針　［本編4ページ］

①静岡市の歴史的・文化的資源の展示・保存及び学術研究の拠点をめざす
②歴史研究のためのネットワークを構築し、情報の交流と蓄積を進める
③自ら学ぶ市民を支える生涯学習の拠点をめざす
④学校教育との連携を深め、郷土学習の拠点をめざす
⑤「歴史文化のまち静岡」の情報を発信し、観光の核となることをめざす
⑥文化活動を通じて地域の産業の活性化をめざす
⑦市民との協働により、市民とともに進化し続ける施設をめざす

■歴史文化施設の役割　［本編7ページ］

①「駿府」の歴史を語る

駿府城下町をはじめ、清水湊や各宿場など、周辺地域を含めた「駿府」の歴史を語る施設として、駿府在城中の「大御所家康公」をクローズアップし、新たな都市イメージ「大御所家康公と駿府」を確立します。

②「学び」のコーディネート

市民が専門家や研究者とともに地域を学び合う拠点になるとともに、学校教育との連携により、将来の郷土を担う人材の育成をサポートします。加えて、市内各施設の「つなぎ役」となり、様々な分野の専門家が関わり合う多面的な「学び」の場を創出します。

③集客の核となり、地域に誘う

地域資源を活用し、本市のPR力を高め、集客を図ることで、歴史観光を推進します。そして、多くの人々が市内各地域を訪れ、地域の人たちと交流する機会を創出することにより、地域活性化の一翼を担います。

■歴史文化施設の機能　［本編13ページ］

博物館機能
収集・保存　調査・研究　展示・公開　教育・普及

＋

ビジターセンター機能
集客創造　回遊促進

文化力から経済力へ

Ⅱ　事業計画

1　事業計画の基本的な考え方［本編17ページ］

歴史探求
歴史的･文化的資源や魅力の収集、研究、展示

地域学習
学校、地域、他の関係施設との調査、教育活動等の連携

観光交流
施設への集客を高め、市内回遊の動機づけを図る

各活動の連携と循環

歴史探求
（展示エリアに反映）

地域学習
（市民交流エリアに反映）

観光交流
（ビジターセンターエリアに反映）

Ⅱ　事業計画

2　事業詳細計画

（1）展示計画　［本編19ページ］

■展示の基本的な考え方

（ア）徳川家康公を展示の柱とします
（イ）今川氏、東海道の交流を「テーマ展示」とし、静岡市の特徴を表現します
（ウ）市民による地域学習と連携し、静岡市の通史を学ぶ場を提供します

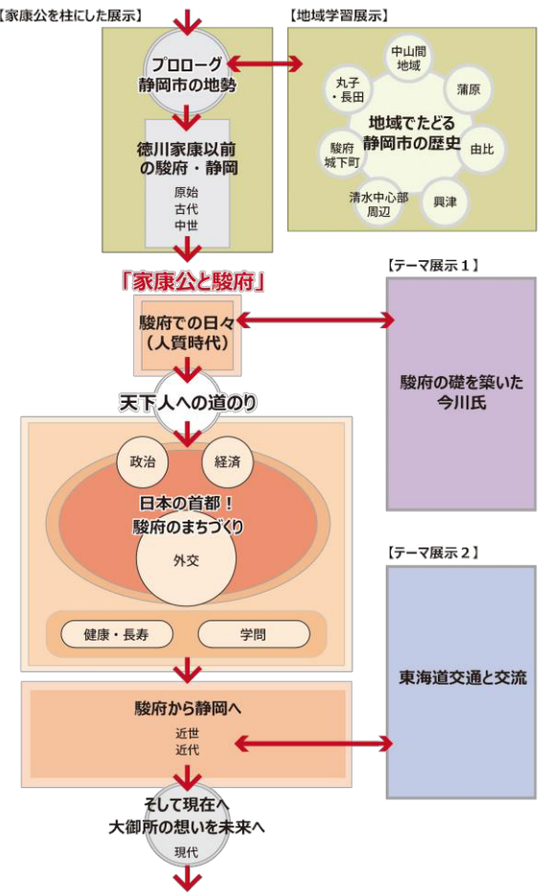
■展示の構成

【家康公を柱とした展示】
家康公と駿府
大御所時代の徳川家康公と国際都市駿府を柱に展示

【テーマ展示1】
駿府の礎を築いた今川氏

【テーマ展示2】
東海道交通と交流

【地域学習展示】
地域でたどる静岡市の歴史



（2）協働・連携による活動計画
［本編26ページ］

■活動の基本的な考え方

（ア）ボランティアや市民団体が主体的に利用できる場を提供し、市民とともに静岡市の歴史文化を探求します

（イ）市民活動と連携したイベントやプログラムの開発に市民とともに取り組みます

（ウ）市民が活動成果を発表できる場を整備することで、通史展示を補い、静岡市の地域の歴史を市民とともに発信します

（エ）文化財救済の意識を高め、市民とともに大災害に備えた体制を整えます

専門家・研究者とともに、本市の歴史を探求する

フィールドに出て、歴史の魅力を発見する

「学び・発見」を分かち合い、連携の輪を広げる

（3）ビジターセンター計画　［本編29ページ］

■ビジターセンターの基本的な考え方

（ア）「遊ぶ・楽しむ」という体験の場として、歴史体感展示を設置し、施設への集客と博物館への誘導を図ります
（イ）『健康・美×静岡』をテーマに中心市街地を訪れる人々の集客力を高めます
（ウ）市内観光の拠点として、静岡市内の情報提供を行い、回遊を促進します

■ビジターセンターの構成

【エントランス】
歴史に気持ちを引き寄せるエントランス

【ショップ・カフェ】
展示と連動した歴史の追体験ができる憩いの空間

【観光案内情報コーナー】
市内の全ての観光資源をつなぎ発信するコンシェルジュ

【歴史体感展示】
展示とつながりをもったインパクトのある体感展示

【ショップ・カフェ　イメージ】

【観光案内情報コーナー　イメージ】

【歴史体感展示　イメージ】

古今東西、家康公とつながる人・モノ・コトが駿府城から大行進！
立体歴史絵巻とともに、古の時代へと心を進める。

・吹き抜け空間を大胆に利用し、大御所時代の駿府の賑わいを原寸大で表現。利用者が当時の華やかな駿府を体感できる展示を配置します

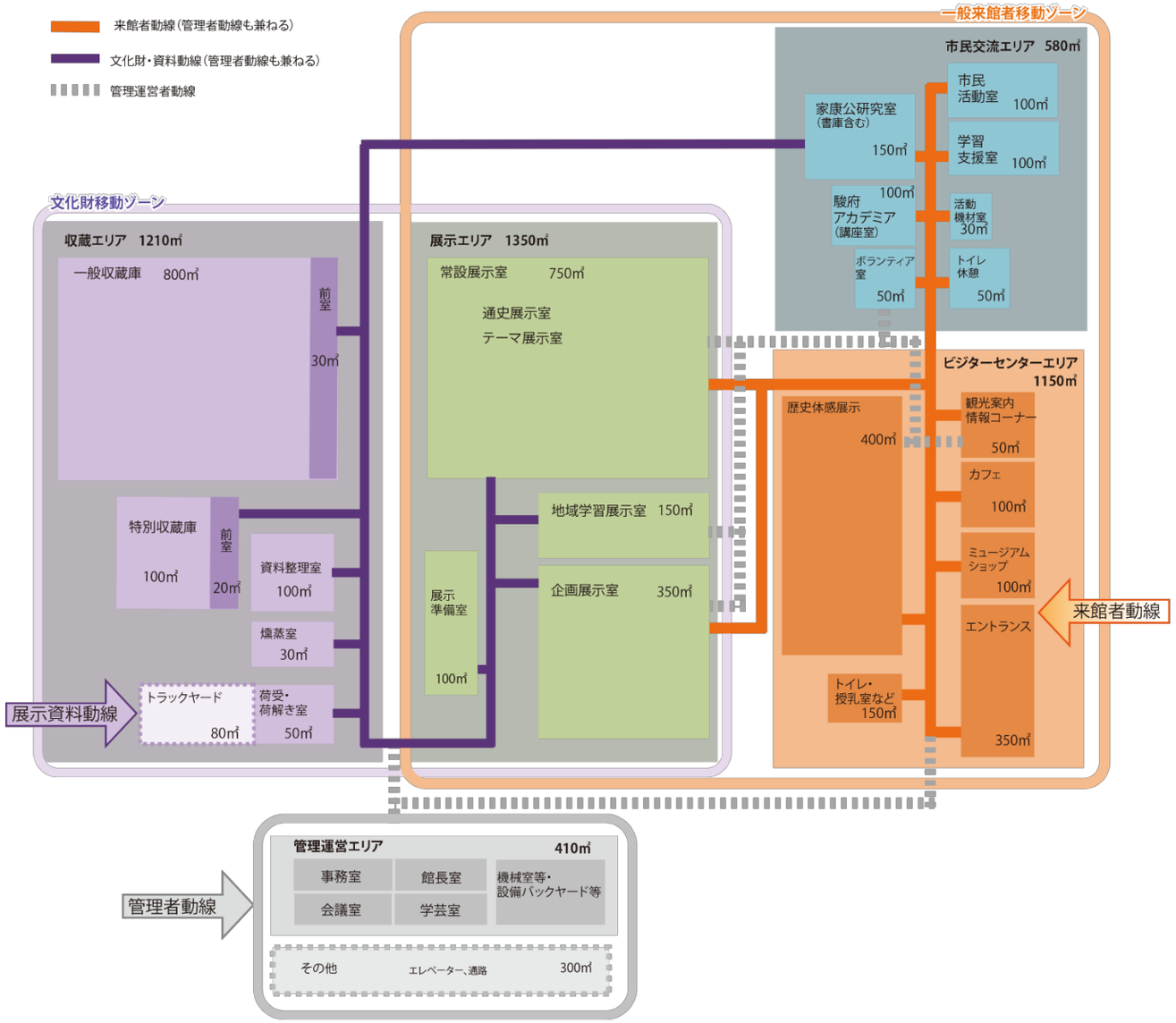
（4）資料の保存・活用計画　［本編33ページ］

静岡市の歴史的・文化的資源を保存・継承するために必要な資料を収集・保存します。また、調査研究や展示公開の各活動、さらには地域学習活動等との連携により、「歴史文化のまち」の実現に向けて、資料が持つ可能性を最大限に活かしていきます。

（5）情報の管理や提供システムの活用計画　［本編34ページ］

情報提供を行なう場所や提供する情報内容の整理、活用にあたってのルールを定めた上で、利用者が欲しい情報に容易にたどりつき、活用できるしくみを整えます。

Ⅲ　施設計画　［本編37ページ］



1　建設予定地

静岡市葵区追手町4-16　旧青葉小学校跡地

2　敷地の概要

□複合施設化を前提に、旧小学校校舎を解体撤去ののち、新築。

□概算事業費
今後、施設の建設の方向性によって決定します。

3　施設機能の全体構成

□展示エリア：1,350㎡
□ビジターセンターエリア：1,150㎡
□市民交流エリア：580㎡
□収蔵エリア：1,210㎡
□管理運営エリア：410㎡
□その他：300㎡
合計：5,000㎡

※諸室面積については、設計時に詳細を検討した上で決定します。

4　諸室の概要

（1）展示エリア
歴史的・文化的資源の展示・解説を行うエリアです。常設展示室や企画展示室など、複数の展示室で構成し、国宝、重要文化財の展示可能な機能を備えて多彩なテーマで魅力を発信します。企画展示室では、主催、他機関との共催による企画展（巡回展）や市民との共同研究成果を展示します。

（2）収蔵エリア
歴史的・文化的資料の収蔵を行うエリアです。施設で利用する資料を保管する一般収蔵庫のほか、重要資料の保管を行う特別収蔵庫などにより、資料の散逸や破損を防ぎます。

（3）市民交流エリア
市民の活動を支援するエリアです。講座室や、図書資料の閲覧ができる学習支援室などにより、市民との協働・連携による活動のほか、勉強会やボランティアなどの市民の自主的な活動をサポートします。

- ◘ 家康公研究室（書庫含む）
  市民、研究者、学芸員など、幅広い人々による家康公研究の拠点とします。書庫機能を設け、研究に必要な関連書籍を閲覧可能にするとともに、必要に応じて利用者が博物館資料を閲覧できるようにし、市民と専門家がともに歴史研究を行う場とします。
- ◘ 駿府アカデミア（講座室）
  様々な歴史講座や地域学習に関する講座を展開し、特別な場で学んだという学びの記憶を利用者に伝えます。

（4）ビジターセンターエリア

- ◘ 歴史観光の拠点となるエリアです。本市の歴史を体感する展示、ショップ、カフェにより多様な体験を市民や観光客に提供します。
- ◘ 観光案内情報コーナー
  関連施設や観光地、史跡・名勝地の情報をきめ細かに提供します。また、観光情報だけでなく、市内の様々な情報を提供し、観光客だけでなく、誰でも利用しやすい市内情報の案内所とします。
- ◘ 歴史体感展示
  大御所時代の国際都市駿府に訪れた人や物資の大行列を原寸大で表現するなど、本市の新たな都市イメージを発信する場とし、利用者が当時の華やかな駿府を体感する展示とします。

Ⅳ　管理運営計画　［本編51ページ］

■管理運営の方針

職員を適切に配置し、充実した研究活動を行うとともに、市民と一緒に成長する施設運営をめざします。

■運営方式の考え方

博物館機能とビジターセンター機能の2つの機能を効果的に生かすことができる手法を採用します。

Ⅴ　建設スケジュール　［本編55ページ］

H27年度	H28年度	H29～30年度	H31～32年度	H33年度
基本計画　策定	民間との複合施設化の手法を検討	・運営計画 ・展示設計 ・建築設計 ・既存建物解体 ・発掘調査	・体制構築 ・展示制作 ・建築工事	（仮称） 静岡市歴史文化施設 開館